

●リラックスできる 家事と妻との対話

藤井 趣味は家事と伺いましたが、『男の手料理』ですか？

藤原 掃除と洗濯。休みの日には朝から、洗濯しながら掃除機をかけてます。夕方からは買い出しと、夕飯の準備。これからは寒くなるから鍋料理ですね。

藤井 エーッ（笑）。

藤原 通常の診療に加え、今年の五月まで月六回の当直と支払い基金審査をしましたから、家族一緒の食事は月に一回程度。休日は家事に専念します。階段を掃除するときコンセントを上と下の階でつけ変えたり面倒だけど、これがまた楽しい。

藤井 先生のリラックスタイムですね。

藤原 毎晩どんなに遅く帰宅しても、妻と一時間は対話する。二人で一杯やりながら、他人には話せないことを、妻に聞いてもらってる。

藤井 ストレス解消ですね。奥様偉い！

藤原 「怒った顔は見たことない」と妻に言われる。

藤井 怒ったことないのでですか（笑）？

藤原 怒ることもありますよ。最近感銘を受

けた一冊があるんです。佐々淳行著『わが上司 後藤田正晴』なのですが、その一節に、後藤田氏は怒った時には口数が減り、むしろ丁寧な口調になる。私と同じなんだなと思いました。

●救命と救急を患者として体験



在宅の仲間たち

藤井 「生涯忘れられない思い出」に子供時代に死にかけたことを書かれていますね。

藤原 小生の時、芦別の母の実家（祖父は芦別市長）の台所で、お手伝いさんが七輪で魚を焼いているのを眺めてみると急に気分が悪くなり、何か得体の知れない嫌なものが見えた。それからの記憶は無いのですが、突然、暗闇の真ん中から強い光が差し込んで来て、意識が戻ると目の前に医師が見えた。一酸化炭素中毒だったんです。その白衣が印象的でした。

余市での中学生時代、教師に引率されて友人五人とチセヌプリの南麓にある大湯沼（蘭越町ニセコ湯本温泉）に出掛けました。熱湯の硫黄泉『大湯沼』の大小いくつかの湯壺には板が渡りあつて、先頭を歩いていた私は板を渡る途中に転んでしまったのです。すると、板がはずれて熱湯に全身が浸かる瞬間、陸上部で鍛えた脚力で咄嗟に受け身で板に掴まりましたが、右足が太ももまで熱湯のなかに。大火傷の熱さや痛みより、一緒に行った女子の前でズホンを脱ぐのも恥ずかしく…。

藤井 痛かったですよ。

藤原 生まれて初めて乗った救急車。車内でズボンを脱ぐと、靴下を脱ぐように右太ももの皮膚が踝までズルリと剥がれ、救急車の窓から吹き込む風が患部に当たって痛い。

「奇跡だな。よく命を取り留めた。あと少しで男性の大事なところも危なかった」と言われました。

インタビューを終えて

医師の道は、宿命づけられていた

常任理事

藤井 美穂

CO中毒と大火傷。子供時代に救命と救急の患者を体験なされたことが、脳神経外科医への道に続いていたのかもしれない。藤原先生に医師になった動機を伺うと「他の人の役に立ちたかった」とおっしゃる。絶えることのない笑顔に接しているとその理想は今も変わらないと思います。取材中、何度か藤原先生の携帯電話が鳴りました。着歌はコブクロ。「設定は息子。選曲は僕ですよ」嬉しそうに話してくださいました。

●月曜の夜は、多くの患者さんが待っている

藤井 藤原先生はいつも笑顔でいらつしやる。感情を制御する秘訣を教えてください。

藤原 「先生から元気をもらいに来たんです」と、ある患者さんに言われたことが嬉しくて、患者さんに『元氣』を差し上げるのが私の役目だと認識しています。笑顔で対応すると患者さんもりラックスして、結果的に多くの症状を知ることが出来ます。感情を制御する秘訣があることすれば、人を緊張させないよう心掛けていくことかな。意識しなくとも笑顔は自然に出てく



生年月日 昭和26年4月12日
出生地 余市郡余市町
出身大学 札幌医科大学 昭和51年卒
好きな言葉 脳神経外科 信頼・友情

る。

藤井 先生の声も優しく、言葉が心に染み込んで来る。患者さんに人気があるでしょう。

藤原 うち（札幌秀友会病院）では、月曜日のみ夜間外来を開いていて、私が担当しています。四十〜六十人の患者さんからお話しを伺うのですが、もらい泣きすることもある。

藤井 患者さんは医者に共感して欲しいから。先生が涙すると患者さんも嬉しい。

藤原 六割は女性患者さん。八十五歳の方から「恋人に会う気分」と告白されています（笑）。

月曜日の夜は、僕にとつても貴重で大切な時間なので、プライベートはもちろん医師会活動も遠慮させていただいてます（笑）。

●口髭と医師国家試験

藤井 脳神経外科医を選んだ動機は？

藤原 札幌大三年生の解剖学の時、脳の解剖が非常に難しく、こんなに難しい内容の分野を目指す者はいないだろう。未知の分野に挑戦する気持ちでした。結果的には六人（中村脳神経

外科病院に四人、札幌大に二人）もいました。中川俊男先生も同期です。脳外科医が主人公のテレビ映画『ベンケーシー』への憧れもあったかな。

脳は神々しく美しい。頭蓋骨をはずして、透明なクモ膜に軽くメスを入れると、スーッと亀裂が入る。『十戒』という映画で海が割れて道が現れるシーンのように不可思議にも脳が現れてくる。身体の機能を司り、思考や性格を造る『脳』に触れるのは感動します。

昔、国立札幌病院が救急を立ちあげた頃、応援に行つて多くの臓器手術を見ましたが、脳に比べると汚いと言つて、ひどく叱られた（笑）。藤井 手術の時に見る子宮のいとおしさ、小さく健気な子宮も感動しますよ（笑）。

口髭はいつから生やしていたのですか？

藤原 卒業試験から国家試験まで日数があるのでしよう。髭を中途半端に生やしていると人前に出られない。遊びに出掛けないで勉強に集中できるようにと思つたのが契機です。

藤井 お髭の歴史は医師のキャリアと同じ三十年ですね。

藤原 夢があるんです。私が死んだとき、千人の患者さんが弔問に来てくださったら良いなという夢なんです。これまでの三十年間とこれからの年月をかけた集大成として、患者さんから評価されることが一番大切なものと思います。